

【旭区】令和 7 年第 2 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和 7 年 6 月 11 日 (水) 15 時 00 分 ～ 16 時 20 分
場 所	旭区役所新館 2 階 大会議室
出席者	<p>【座長】くしだ 久子 議員</p> <p>【議員：5 名】佐藤 茂 議員、こがゆ 康弘 議員、大岩 真善和 議員 木内 秀一 議員、増永 純女 議員</p> <p>【旭区：24 名】榎藤 由紀子 区長、田畑 哲夫 副区長、 種子田 太郎 旭消防署長、 下澤 明久 福祉保健センター長、 山本 千穂 福祉保健センター担当部長、 嘉悦 明彦 福祉保健センター医務担当部長 岡本 栄里 旭土木事務所長</p> <p style="text-align: right;">ほか 関係職員</p>
議 題	<p>【議題】</p> <p>令和 7 年度旭区個性ある区づくり推進費の執行計画について</p>
発言の旨	<p>【議題】</p> <p><u>1 令和 7 年度旭区個性ある区づくり推進費の執行計画について</u></p> <p>木内議員：「地域安全安心普及推進事業（P7）」のうち、地域防犯推進事業について、昨年、青葉区でも事件の発生があり、横浜市としてもその事件を踏まえて防犯灯や防犯カメラを増やす取り組みがあると思うが、区独自事業としてどのような取り組みがあるか伺いたい。</p> <p>露木昇地域振興課長：市民局が横浜市内で防犯灯の一斉点検を行っているが、劣化した鋼管ポールの建替えは原則できないということで、代わりにセンサーライト設置等にかかる補助金交付を進めている。使ってみないと実用性が分からないということもあるため、旭区独自として区役所でセンサーライトを用意し自治会町内会向けに一定期間の貸出を行っている。</p> <p>木内議員：「災害に強い区づくり事業（P6）」について、旭区は地域防災拠</p>

点の中でアマチュア無線を活用される方が市内でも特に充実していると思う。区としてアマチュア無線協会と共同作業を進めていくなども構想があるか伺いたい。

齋藤修身総務課長：旭区では、横浜市アマチュア無線非常通信協力会旭区支部と協定を結び、各地域防災拠点の訓練で通信訓練等を実施していただくなど綿密な連携を行っている。

木内議員：区役所から働きかけを行っているのか。

齋藤修身総務課長：区役所からも働きかけを行い、災害時に通信手段が途絶えたときでも有用なものとして協力をいただいている。

木内議員：より一層の連携強化を図って有効活用していただきたい。

「文化芸術による心の豊かさ推進事業（P13）」のうち、文化芸術活動支援事業について、「文化芸術活動を公募し、審査を経て支援」とあるが、どのような審査をしているのか伺いたい。

露木昇地域振興課長：区職員を含む審査員が各活動の継続性等を審査して支援対象を決めている。

木内議員：大切な事業だと思うので引き続き進めていただきたい。

増永議員：「災害に強い区づくり事業（P6）」のうち、福祉避難所開設・運営支援事業について、現状 66 施設で進めていただいていると思う。前回、エリア別の偏りが出ないように実施していただくよう依頼をしていたがその後の進捗状況を伺いたい。

國分忠博高齢・障害支援課長：福祉避難所については、地域ケアプラザや特別養護老人ホーム、老健施設、障害者施設等の受入がしっかりと可能な施設と協定を締結している。そのため、施設の所在分布によってエリアごとに多少偏りが出る。今年度から新たに高齢者施設と協定締結し全体数を増やしていく。これにより、全体的な対応力を上げていきたいと考えている。

増永議員：受入がしっかりとできる場所という前提はあるもののエリアが固まってしまうと思う。増やすとのことではあるが、偏りがあると理解・促進に影響が出てくると思うので解消に向けて進

めていただきたい。

「安全で安心な食と生活環境支援事業(P9)」のうち、飼い主のいない猫対策事業について、前回タブレットで動画を作成して啓発を行うとのことだったが進捗を伺いたい。

中条圭伺生活衛生課長：この動画については、飼い主のいない猫の対策に取り組む住民の方からどのようなことをやるのか具体的なイメージが想像しづらいというご意見を受け、今年度から導入し取り組みを行うこととしている。実際に活動しているところを撮影し、説明材料とすることを考えている。子猫は春・秋に多く生まれることから春・秋の活動が多くなるが、春に撮影ができなかったため、秋に撮影を行い冬ごろから説明に使用したいと考えている。

増永議員：「あさひのつながり応援・発信事業（P10）」のうち、市民活動センター（みなくる）事業について、あさひみらい塾が市民局の事業ではなくなり今年度から「参加者同士の学びと交流の場」ということで区独自で実施していると思うが、内容と目的を伺いたい。

露木昇地域振興課長：参加者同士の学びと交流の場として「まちの楽校」を実施するとともにあさひみらい塾の延長となる事業として地域活動応援講座の実施を考えている。地域活動のプランを作っていたいだいたり、活動を見学していただいたり連続的な講座を開催したいと考えている。

増永議員：連続的な講座ということは、同じ人が複数回参加するということか。

露木昇地域振興課長：1回目をスタートアップ講座とし、2～5回目を継続する事業の実施を考えている。1回目は多くの方にご参加いただき、2回目以降は継続して地域活動していける方に参加していただきたいと考えている。

増永議員：事業実施後の効果を改めて教えてほしい。

あさひの魅力発信事業について、区民ライターの記事について、知らないこともたくさんあり、いい記事を読ませていただいた。1人1投稿となっているが、この数に理由はあるか。

西澤美穂区政推進課長：記事を作ること自体が大変ということもあり、1人1投稿はするように依頼をした。今年度もフォローアップを行う。参加された方からも、参加して良かった、取材をしたことで新たな情報を得られたという声もあるため、より魅力を発信していけるようにしていきたいと考えている。

増永議員：「文化芸術による心の豊かさ推進事業(P13)」のうち、読書活動推進事業について、読書マップが誰のためのどういう目的のものなのか分かりづらいためそこから検討いただきたいと要望させていただいたところ、これから親しみたい親子の方や子育て世代にフォーカスを絞って作るイメージと回答いただいたと理解していたが、その後の進捗を伺いたい。

露木昇地域振興課長：本と出会える場所マップのターゲットとしては、属性を絞らずすべてのあさひ区民を対象にしている。従前、施設の羅列をしていただけということや、子育て世代などの属性別に分かりづらいということもあり、掲載方法の見直しを図り、それぞれの属性に伝わりやすいように掲載したいと考えている。子育て世代向けに小学生までのものが大切だということで、子育て世代向けの内容を拡充し保育園や幼稚園、図書室なども掲載していければと考えている。

増永議員：1枚の中にそれぞれの属性の方が分かりやすい内容になるということでしょうか。出来上がりをしっかり確認させていただきたい。

ビブリオバトルを長年やってきたが、今年度から取りやめて施策に変えた理由とK P I（重要業績評価指標・数値目標）を伺いたい。

露木昇地域振興課長：旭区政 50 周年記念を契機に旭区中学生ビブリオバトル大会を開催した。その後、新型コロナウイルス感染症のまん延もあり、令和2～3年度を中止し、令和4年度から再開したが、参加人数の確保が難しかったこと、参加者がリピーターの方が多いということもあり、もう少し参加者の裾野を広げることができないかということで、今回、事業の見直しを行った。今年度からはP O Pを使って本の紹介するイラスト書いたりすることをきっかけにお気に入りのコンテンツを見つけて紹

介する楽しさを知ってもらいたいということで実施をする。
目標については、数値的な目標ということよりは内容的目標として、本と出合えるマップや第三次横浜市民読書活動計画と合わせて作成する旭区読書活動推進目標で3つの柱（どきどき読書活動、ワクワク読書活動、いきいき読書活動）を掲げて、本と出合えるマップと合わせて1つのリーフレットとして配付したいと考えている。

増永議員：参加者の幅を広げたいとのことで事業転換されたということですので、より多くの方にPOPづくりを参加いただく目標値をもって取り組んでいただくよう要望したい。

大岩議員：まちづくりについて、希望が丘と鶴ヶ峰のまちづくりについて進捗状況を伺いたい。

西澤美穂区政推進課長：希望が丘のまちづくりについては、地権者を中心に検討している。都市整備局地域まちづくり課とともに検討が進むように支援を行っている。

鶴ヶ峰のまちづくりについては、令和6年3月に鶴ヶ峰駅北口地区市街地再開発準備組合ができ、相模鉄道本線（鶴ヶ峰駅付近）連続立体交差事業の工事も進んでいる。相鉄線の地下化に合わせて、線路跡地や北口のまちづくり全体をどうしていくのか関係局と調整を進めている。

大岩議員：若葉台西中学校及びひかりが丘小学校の跡地活用について進捗を伺いたい。

西澤美穂区政推進課長：若葉台西中学校については、令和6年度にサウンディング調査を実施し、9事業者から教育施設やシェアオフィス等の意見をいただいた。サウンディング調査を踏まえ、現在地域で活用しているところをどうするかも含めて、地域と話し合いを進め、合意が整い次第、公募に向けて庁内手続を進めていく。

ひかりが丘小学校についても、サウンディング調査で7事業者から地域ニーズを踏まえた教育施設等のアイデアをいただいた。地域で活用しているコミュニティハウスでの活動と事業性をどのようにしていくかを地域と話し合いを進め、こちらも合

意が整い次第、公募に向けた庁内手続を進めていく。できるだけ早く本格活用に移れるように調整を進めていきたい。

大岩議員：財政局からも進捗を聞いており、課題があることも承知している。引き続きよろしくお願ひしたい。

「GREEN×EXPO 2027 へ向けた機運醸成事業（P24）」について、GREEN×EXPO 2027 で何をするのかが地域で聞かれても答えられない。開催2年前で様々なことを発表されているため、それをかみ砕いて伝えていかなければいけないと思う。脱炭素・GREEN×EXPO推進局（以下、局という）とも連携して旭区としてもどのようなことが行われるのか発信してほしい。横浜市として令和7年度予算で機運醸成の予算をとっているが、旭区民の方にも参加していただけるようなプロジェクトやイベントなどに使った方が良くと思う。局でも具体策が決まっていなと聞いているが、旭区としてこのようなことをやってきたいと局に投げかけても良くと思うがそのあたりの所感を伺いたい。

西澤美穂区政推進課長：これまで、具体的な中身が見えていなかったが、3月に出版事業者も公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会（以下、協会という）から発表されたり、イメージ図もできたりこれから内容も知らされてくるのかと思っている。3月の発表内容についても横浜市旭区連合自治会町内会連絡協議会で局から報告するとともに単位町内会にもお知らせした。できる限り具体的な内容を地域の方にもしっかりと伝えていきたい。区役所としても局と連携して具体的な内容を順次お伝えするとともに、横断幕等の掲出や相鉄線鶴ヶ峰駅ホーム内での巨大アート作品展示を考えている。区独自でできるものと局と連携してできるもの引き続き調整しながら進めていきたい。

大岩議員：現時点で決まっている内容の中でもできるものはあると思う。街づくりや緑の活動等、旭区民の方にも関わってもらえるように能動的に進めていくのがGREEN×EXPO 2027の意義でもあると思うのでお願ひしたい。

GREEN×EXPO 2027の開催に向けて、旭区の魅力の見える化をしないといけなとと思っている。例えば、「自然豊かな旭区魅力ア

ップ事業（P26）」のうち、ホタルの舞う里づくりについて、旭区で蛍が見える場所が複数か所あり、見に行くと素晴らしいと伺っている。写真や動画等、旭区で蛍が見えることを情報発信したらよいのではないかと思いますがいかがか。

西澤美穂区政推進課長：ホタルの舞う里づくり事業では、若葉台地区と旭北地区でホタルの飼育会、鑑賞会、放流会を実施している。蛍を発信し、人が集まることによる成育環境の変化や周辺住民の方への影響にも注意しながら、旭区に蛍がいることを発信できればと思う。

大岩議員：旭区の魅力をまだまだ発信できると思う。特に GREEN×EXPO 2027 では多くの方が来場されるためそれを見据えて何らかの工夫をしていただきたい。

佐藤議員：文化芸術による心の豊かさ推進事業に関連して、横浜旭ジャズまつりについて伺いたい。だいぶ歴史を積み重ねてきているがいつごろから実施しているか。

露木地域振興課長：1990年から開催し、今年度で34回目となる。

佐藤議員：ここ数年の来場者数を伺いたい。

露木地域振興課長：令和2～3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催見送り。令和4年度が1550人、5年度が2,000人、6年度が2,210人。

佐藤議員：開催当初は今よりも来場者が多かったように思うが、当時の来場者数の情報はるか。

露木昇地域振興課長：当時の来場者数の情報は現在持ち得ていない。

佐藤議員：来場者の所在地別情報を伺いたい。

露木昇地域振興課長：来場者にアンケートを実施しており近年の来場者で約7割が旭区民、その他が区外の方となっている。遠いところでは北海道から来場されている方もいらっしゃる。

佐藤議員：実行委員会のメンバーに旭区役所も入っているのか。

露木地域振興課長：旭区役所も入っている。

佐藤議員：ゆったりとしているため、現在よりははるかに多くの方が入ると思うが、会場の収容可能人数はどの程度か。

露木昇地域振興課長：野球場のため相当数の人数が入ると思うが正確な人数は把握できていない。

佐藤議員：横浜旭ジャズまつりに 200 万円の補助金交付をしているが、ジャズまつり全体の予算がどの程度か分かるか。

露木昇地域振興課長：全体予算が約 1300 万円で、そのうち 200 万円が補助金となっている。

佐藤議員：補助金を出している趣旨としては来場者の 7 割が区民で 200 万円を投資して楽しんでもらうということかと思う。会場設営にも予算がかかるかと思うが、もう少し大規模なイベントができるのではないかと思う。プロのミュージシャンを呼んでいるが、有名な方を呼ぶことで旭区名物イベントが区民や、区外の方も多く集まるイベントができると思う。環境は良いのにもったいない気がする。実行委員会の中にイベントの専門家がいるか分からないが、イベンターがいないと有名な方を呼ぶことができない。旭区が GREEN×EXPO 2027 を契機に目覚ましい発展されるよう横浜旭ジャズまつりも大きなイベントになると良いと思う。

露木昇地域振興課長：実行委員会について、実行委員長はタカナン乳業株式会社の高梨信芳氏、また、区内在住のジャズに詳しい方でイベントのプロモーションをしているイベンターの方にも入ってもらっている。第 1 回目の実行委員会から動いていただきプロの方も呼んでいる。

こがゆ議員：「安全で安心な食と生活環境支援事業（P9）」に関連して、全市的には令和6年度末までに年間受付件数上位100手続のオンライン化としてやっていたが、区役所ベースでは何パーセントくらいのオンライン化が行われているのか伺いたい。

西澤美穂区政推進課長：上位100手続のオンライン化のうち、区役所に関連する手続は58手続となっている。デジタル統括本部でライフイベント関連手続（お悔やみ、引越し等）のオンライン化に向けた手続を検討すると聞いている。

こがゆ議員：昨年度中に上位100手続のオンライン化が完了することとなっていたため、区役所業務のほとんどがオンライン化できているということでしょうか。

西澤美穂区政推進課長：受付の多い住民票や課税証明等については、オンラインで取得できるようになっている。利用率が伸びないという課題があるため、全市的に利用率向上を目指すとともにオンライン化されていない手続のオンライン化も進めていくことを取り組んでいる。

こがゆ議員：区役所に来ても多くの方がお待ちになっている。システムはできても使われないのは残念であるため、利用率向上を含めて推進をしていただきたい。

「区民スポーツ事業（P12）」のうち、旭区民スポーツ祭について、今年も開催されるとのことであるが、ある競技に参加ができない連合は他の競技での成績が優秀でも上位に行けないという課題がある。以前から10種目をどうするか議論がされていたと思うが、上位の連合が固まらないようにするために競技の変更や、配点の変更などの工夫はしているのか伺いたい。

露木昇地域振興課長：スポーツ祭については、健康増進や健康維持が開催目的の1つ。参加率の低い競技は継続して見直し等も検討したい。

こがゆ議員：誰でも参加しやすい競技に変えていただいていると思うが、「いつでも、どこでも、だれでも」ということだと思うので、配点も含めて検討していただきたい。

「文化芸術による心の豊かさ推進事業（P13）」のうち、文化芸

	<p>術活動支援事業について、支援額と、最大支援年数を伺いたい。</p> <p>露木昇地域振興課長：特別支援事業については補助率 1 / 2 で上限 15 万円。一般支援事業については補助率 1 / 3 で上限 10 万円。それぞれ 5 年までとしている。</p> <p>こがゆ議員：補助金を上限まで使用するとなると、それぞれ 30 万円以上事業となるが、例えば子ども対象の事業となるとどのようなものが想定されているか伺いたい。</p> <p>露木昇地域振興課長：主にダンスや「森ラボ」といって里山ガーデンの中でアート作品を作ったり見学したりというような事業に補助金を交付している。</p> <p>こがゆ議員：補助金があるうちは様々なことができるが、5 年経って補助金がなくなって事業規模の縮小や内容変更等になることが多い。継続して事業実施してもらうために補助のあり方を検討する必要があると思う。補助金を徐々に減らしていくなど自立できるように工夫をしていただくことで多くの方が参加でき、子どもたちが楽しめると思う。</p> <p>増永議員：GREEN×EXPO 2027 の機運醸成について、旭区民の方が会場に行こうとするときに自家用車で行くことが多くなると思うが、そうすると交通渋滞のもとになる。若葉台地域の方からパークアンドライドのような形で自分たちの自治の中で乗り合いをして会場に行くようなシステムをボランティアベースで構築したいという声があった。局とも話をしたが、機運醸成という点においては、地元の方に自主的に行っていただくことや地域自治で行きやすい仕組みがあると高齢者も含めて皆さんが生きやすくなると思うが、区役所として考えがあるか伺いたい。</p> <p>西澤美穂区政推進課長：地域から、旭区から直接行けるシャトルバスがないため行きやすい方法がないかや、近くの方がリピーターになるよう、行きやすくしないと入場者数が増えないのではないかなという声をもらっている。課題は認識しており、ことあるごとく局や協会には旭区の方も行きやすいような手段や地元区ということもあるため、リピーターが行きやすい方法も考えていただきたいと要望をしている。区民が参加しやすい方法を区とし</p>
--	--

でも調整していきたい。

増永議員：局からの説明によると、パークアンドライドをするとすると、5km や 10km 以上のところに駐車場を作ってそこからとなると旭区民の方からすると近くて遠い GREEN×EXPO 2027 になってしまう。地元なのに皆さんが車で行くとなると混雑の緩和につながらないことになるため、例えば乗り合いで行けるようにすることや、5月末にパークアンドライドの乗降者場所の第1次案が出て具体的なことがこれから決まってくると思うが、ぜひそこに旭区のこともしっかりと考えてほしいという声を今のうちから連合に集めていただくなど合わせ技でやることで旭区の方も行きやすいという印象を持ってもらえると思う。

くしだ議員：「災害に強い区づくり事業（P6）」のうち、災害時のペット対策啓発事業に関連して、横浜市では令和7年度からモデル的という形ではあるが、ペットの同室避難にも取り組むことが横浜市地震防災戦略に盛り込まれた。旭区でペット同行避難について精力的に取り組まれているが、今年度さらに踏み込む形で計画をされているのか伺いたい。

中条圭伺生活衛生課長：ペット同室避難については、動物愛護センターのモデル事業で今年度から取り組んでいる。旭区においても6月5日に実施した「旭区地域防災拠点運営委員会連絡協議会総会」の中で、全拠点の委員長あてにモデル事業の周知をしている。同室避難について相談を身近な問合せ先として区生活衛生課で受けることとしているが現状、相談は寄せられていない。アレルギーをお持ちの方への対策や動物が苦手な方への配慮等の課題もあるため慎重にやっていかないとはいけないと考えている。拠点の委員長からはアレルギーを持っている方などが拠点への避難をためらうのではないかと危惧するという意見もあったため、関係部署と連携して他都市の事例も参考にしながら進めていきたい。

くしだ議員：先日、国会でも質問が出て総務大臣からも推奨していくという発言があった。

また、愛媛県今治市で森林火災があった際に、同室避難をし

たと聞いている。色々なところでそのような取り組みが始まってきた。課題があることも承知しているが、全部が全部できなくてもそのような受け入れがあることが心強いことだと思うため、地域と連携しながら進めていただきたい。

「安全で安心な食と生活環境支援事業(P9)」のうち、飼い主のいない猫対策事業について、動画を作成して啓発を行うとのことだったが、閲覧の要望があって実施されるのだと思うが、何団体ほどから要望があるか伺いたい。

中条圭伺生活衛生課長：具体的に何団体ということは把握していないが、町内会の方が猫について詳しくないことも多々あり、ボランティアの方に限らず地元の方の理解が重要と考えるため、より理解していただくために今回作成を考えている。

くしだ議員：先駆的にやっている方はノウハウや知識が豊富なため連携して進めていただきたい。

「DV対策事業(P8)」のうち、女性弁護士による法律相談について、具体的な人数が分かれば教えていただきたい。

河合太一こども家庭支援課長：女性弁護士への法律相談は、女性相談にいらっしゃった方に対し、専門的な法律相談が必要であればご案内をしている。毎月の指定日に3コマ、年36コマの相談枠を用意しており、令和6年度は24コマをご利用いただいた。

くしだ議員：来年度から共同親権が導入される。一気に変わるということではないと思うが、離婚された後に別居親になった方が、子どもに会えなく悲しんでいるという声を聴く。せめて子どもの学校行事くらいは遠くからでも見たいがなかなか行事情報を得ることができないという声がある。その辺の判断は学校長に任せられていると思われるが、学校側からすると情報を伝えることで何かあるといけないから同居親の承諾が必要と言われていて聞いている。親にしてみれば、離れていても節目節目で子どもの成長を見たいという相談がある。共同親権になるうえでは両親ともに子供の成長を見守るということで行政サイドも支援が必要と考えるとともに、学校サイドとも連携をとっていただきたいと考えている。

河合太一こども家庭支援課長：現時点で学校がどのような判断をされ、ど

	<p>のような基準で運用されているか情報がなくお答えができない。ただ、そのような声があることで共同親権の導入の議論もあったと思う。国のガイドラインが示されていないため、分からないが、まずは子どもにとっての幸せをまんなかに置いた形でガイドラインの策定、現場ごとの運用がなされていくべきであると思う。区役所としても新しい仕組みを使って子どもたちの幸せを中心に取り組みを進めていきたい。</p> <p>くしだ議員：様々な課題が出てくると思うが、子どもの健やかな育ちが中心になっていないといけないと思うので、現場サイドでも考慮していただきたい。</p>
備 考	会議の議事録作成については座長に一任で異議なし